

会議録

会議名	あんしんネットワーク全体会		
開催日時	平成 30 年 5 月 16 日（水）19 時～20 時 30 分	開催場所	南小国町自然休養村管理センター 1 階（和室）
議 題	1. 認知症カフェ「ひとよこい」のあり方について 2. 各チームからの連絡及び報告 3. その他	出席者	おおよそ 50 名
司 会	小国町地域包括支援センター 矢羽田 直美	記録者	小国町役場 福祉課 生田敬二

（代筆 福祉課 加祥）

NO	議題	内 容
1	認知症カフェ「ひとよこい」のあり方について	<p>① ひとよこいチームから説明（みどりの里下城氏より）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症カフェは、認知症の方が増えていく中で、国の認知症施策総合戦略「新オレンジプラン」が位置付けられ認知症の人と家族・地域住民・専門職・などの誰もが参加出来、集う場所であると設置がされた。小国郷医療・福祉あんしんネットワークの中で、両町の地域包括支援センターが主体となって開設した「ひとよこい」が三年目を迎える。当初は、楽しく過ごすことで満足をしていたが、回を重ねていくうちに、限られた方の参加や、本当に困っている家族の参加が皆無であるなど、本来の認知症カフェの理念から離れていることに気付いた。 <p>② 現在の「ひとよこい」の問題点（小国町包括矢羽田氏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にカフェチームで問題点を洗い出した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 利用者が少ない。 2) 内容のマンネリ化 3) スタッフの現状 <p>③ グループワーク（なごみ穴井氏）班ごとに問題点の洗い出しや解決方法を出す。</p> <p>④ グループ発表 別紙</p> <p>⑤ まとめ（公立病院 片岡医師）</p> <p>あんしんネットワークがここまで続いたのも大きくなったのも、「ひとよこい」が成功したことがはじまりだった気がする。講演の時に「ひとよこい」を紹介するとき、あんしんネットワークのシンボルが「ひとよこい」とであると定義づけている。地域包括ケアシステムを作り上げるのがこの会の大きな目的である。地域包括ケアシステムというのは、町の多職種の方がネットワークを作って町の人のために何かをやるというのが地域包括ケアシステムですが、その凝縮したものが、この「ひとよこい」の中に出来上がるのが望ましい形だと思う。立ち上がった時は、確かにそれだったが、だんだんかわる人たちが少なくなって、チーム分けしたことが弊害になって、チームに入っていない方がなかなかこの中に入っ</p>

てくる事が出来なくなったのが、今の現状をうんでいるひとつの原因であると思う。当事者意識を持って考えていただいたとおもうので、皆さんから出していただいたご意見は、「ひとよこい」やあんしんネットワークの今後につながってほしいのかなと思う。また、「ひとよこい」の運営に反映されていくことと思いますので、その時には、ぜひ協力をいただきながら、より一層「ひとよこい」・あんしんネットワークを盛り上げていっていただけたらと思います。

2

各チームから連絡及び報告

事例検討チーム

- ・ 今度の事例検討はモデルケースを考えている。やる前にアンケートを取る。3月には、事例報告を予定している。チーム員でなくても参加できますので、ご意見等をお願いします。

認知症カフェチーム

- ・ 今日の意見をもとに、今後どうしていくかの話し合いをする。チーム員がすくないので入ってもらえるようにやっていきたい。

講演会・出前チーム

- ・ 今日メールで配信をしているが、5・6・7月の小国町のサロンの会場と日にちの配信をしている。4月には、リスタさんをお願いした。5月についても、リスタさんに7回の講演をしていただいた。6月は老人クラブ連合会に老健の栄養士さんにお話をさせていただく予定が入っている。6・7月に話ができる方は協力をお願いしたい。

情報共有チーム

- ・ 先月の全体会で、メディカルケアステーションを使っていきたいということと、スマホやタブレットを準備してほしいと依頼しましたが、今後、月1回程度勉強会をしていきたいと思っているので、チーム員以外でも参加をお願いしたい。日程はメーリングリストで流します。

広報チーム

- ・ ホットオレンジを作っているところ。今、チームわけをしているので、まだの方はいくつでもいいので、○をつけてください。

美鳥チーム(欠席)

3

その他

(佐藤代表) *全体会について、チームとして全体会を活用してほしい。今日は早速、認知症カフェチームがやったように、今後は各チームからあがってきた課題をもとにテーマとしてやっていきたい。全体会でテーマとすることで情報共有がやれたらいい。今年度の全体会の予定ですが、5月は認知症カフェがやりました。6月に医療と介護の報酬改定についての情報交換
8・3月は事例検討チームの事例発表。美鳥チームからは看取りシステムの構築についての事前勉強会を、8・9・10月のいずれかでやりたい。

フォーラムについても11・2月にやる予定。これ以外にもあれば出していただきたい

(質問1) * 認知症カフェの開催日や時間を物忘れ外来に合わせたらという意見が多く出ましたが、立ち上げた時にその時間に合わせられなかった理由もあったかと思うが、今後カフェを合わせられるのか。また、病院はどうなのか。

(片岡先生) * 病院はカフェの日には合わせられません。

(なごみ穴井氏) * 認知症カフェは、ほんとはその日にできたらいいが、その日は、物忘れ外来受診の方を病院に連れていかなければなりませんので、そうするとスタッフが別に必要になったり、時間にしてもその時間が一番都合がよいということで、木曜日の午後からとなりました。

* 新しく参加された方々の自己紹介。

(質問2) * 前回の全体会で、あんしんネットワークの規約について一旦もってかえって話すということだったが、それはよかったんですか

(佐藤代表) * 規約については、世話人会で協議をし新しいものを作りました。皆さんには、メールで送ってありますので、見ておいてください。柔軟にやれるように変えました。

(別紙)

	利用者が少ない	内容のマンネリ化	スタッフの現状
1	<p>どういった方に来ていただきたいかを明確にきめ、認知症の方やその家族の方であれば、物忘れ外来時にあわせる南。南小国からの利用者が少ないなら、月2回のうち1回を南小国町で行う。</p>	<p>対象者により変わってくる。脳トレ・パズル等。前回の利用者の申し送りを記入しておく。(当番が変わっても対応できる。)</p>	<p>スタッフの現状数を2～3名にする。いつも来られる方をスタッフにしたらどうか。</p>
2	<p>参加者が固定化している。認知症カフェという名前に抵抗がある。認知症は恥ずかしいという土地柄があるのでは。認知症カフェの認知度が低い。宣伝をもっと行う。物忘れ外来と曜日をお合わせる。元気サロンの利用者と合同で開催したらどうか。</p>	<p>様々な職種の人に参加してもらって多様なイベントを開く。過ごし方をアンケートを取り、それに合わせて内容を決めていく。家族の声を集める。</p>	<p>イベント時の負担が大きい。ボランティアの方へ呼びかけをする。チームメンバーを増やす。</p>
3	<p>認知症地域推進員と連携し体制を構築する。目的の明確化。周知方法の見直し。遠方の方に送迎車やタクシーを出す。</p>	<p>家族会として、夜間や休日の記載をしてはどうか。</p>	<p>夜間に見てみる。日時の見直し。当番でなくても、声をかけてもらえば都合のつく人がいるのではないか。</p>
4	<p>物忘れ外来時に合わせる。おぐちゃんにでるならいかない。南小国町の方にはタクシー券を利用して来られたらどうかと声をかける。あんしんネットワークの方は一度参加してみよう。認知症カフェというネーミングをみまもりカフェに変えたらどうか。時間帯が問題。認知症カフェの役割をいまいちみんな理解していない。カフェを知らない人がいる。認知症というのに抵抗がある。交通の便が悪い。</p>	<p>出前講座を行ったらどうか。内容をオグチャンで知らせる。毎回、いろいろな人にゲストとしてきていただく。相談業務を模擬でやってみては、時間を区切って何をするかプログラム化して少しの時間での参加がいいのでは。認知症カフェ同志の情報共有。魅力がない。</p>	<p>あんしんネットワーク全体でスタッフ募集をしたらい。専任の非常勤を1人確保する。高校生のボランティアを募る。</p>
5	<p>認知症カフェの役割をいまいちみんな理解していない。カフェを知らない人がいる。認知症というのに抵抗がある。交通の便が悪い。</p>	<p>認知症カフェの特性を出す。サービスではいけない。利用者の意見を聞く。イベントは日曜日にする。送迎ができるから。キャラクター的存在をおく。認知症について相談しやすい雰囲気づくり。元気になる大学を参考に。</p>	<p>シルバニア人材の方をやとう。あんしんネットワークのメンバーみんなでスタッフを募る。</p>
6	<p>カフェを他の場所に移動させたらどうか。交通手段があまりない。南小国町で出張カフェをする。開催場所を広いところで利用する。送迎があれば利用者が増えるのでは。物忘れ外来の待ち時間を利用できないか。名前の変更(認知症はまず。)弁当を食べながらPMI:00から開催する。ケアマネから声をかけてもらう。イベントの時は多いが通常は少ない。物忘れ外来がある午前にカフェを開催。認知症の方しか行けないと思う。利用者の家族が一緒に来ない。</p>	<p>認知症カフェの特性を出す。サービスではいけない。利用者の意見を聞く。イベントは日曜日にする。送迎ができるから。キャラクター的存在をおく。認知症について相談しやすい雰囲気づくり。元気になる大学を参考に。</p>	<p>シルバニア人材の方をやとう。あんしんネットワークのメンバーみんなでスタッフを募る。</p>